

2023(令和5)年度 部局マニフェスト ～私たちの組織使命と目標～

部局名	消防本部
役職	消防長
氏名	林 浩己
連絡先	0595-24-9100



業績目標の達成状況

5. 先進的な取り組みを行い、成果があった
4. 達成水準を上回る成果があった
3. 業績目標を達成した
2. 取り組んだが、業績目標を達成しなかった
1. 業績目標に取り組まなかった

組織使命	組織使命達成に向けての目標		目標の達成水準	目標を達成するための手段
◎部局目標1	関連の施策・基本事業No	2-2.①	〈現在の状態〉 火災を含め複雑多様化・大規模化する災害への、より高度な対応が必要である。 ↓ 〈達成目標〉 ・消防水利の整備として防火水槽と消火栓を整備し、消防水利充足率が現在の64.1%から64.3%まで向上させる。 ・令和6年4月から名張消防と共同運用する高機能消防指令システムを構築し、通信指令員を10名以上育成する。 ※目標が達成した状態 ・消防水利の強化により火災の被害が低減する。 ・119番通報から消防隊や救急隊などの出動編成を迅速に行うことで、災害の発生に際し、確実、迅速な活動を行え、被害を最小限に抑える。	・消防水利整備 充足率の低い地域に、消火栓2基と防火水槽3基を整備する。 ・人材育成内容 「新消防指令システムの操作技術」 「国が示す標準的な指令員資質の向上」 以上を両市消防本部の統一したカリキュラムで教育を実施する。
常備消防体制の充実強化を図り、安心安全なまちづくりを進めます。	・火災・救急などの発生に際し、確実・迅速な出動・現場活動が行えるよう、消防水利をはじめとする消防施設・車両・資機材を計画的に更新・整備し、総合的な消防体制の強化を図り、持続可能な消防行政サービスの提供を行います。			
◎部局目標2	関連の施策・基本事業No	2-2.②	〈現在の状態〉 ・市民が容易に救命講習を受講できていない。またAEDを使用する頻度が少ない。 ↓ 〈達成目標〉 市民が容易に救命講習を受講できる。また近隣のAED設置場所を即座に確認できることで、適切な救命処置と早期にAEDを使用し救命率の向上を図る。 ※市民による救命処置率60%以上 ※市民によるAED使用率 4%以上 ※目標が達成した状態 市民による救命処置率の向上と付近にあるAEDが使用されることにより、救命率の向上につなげる。	・市民が容易に救命講習を受講できるよう、2回/月の定例型開催を実施する。 ・伊賀市ホームページの「AEDマップ」を、スマートフォンなどで設置場所を検索できる「AEDナビ」に変更し、登録を進める。 ・救命講習等でAEDの設置場所を紹介するなど、広報する機会を増やす。
救急・救助体制の充実を図り市民の生命を守ります。	・市民による救命処置の実施とAED使用回数を増やし救命率の向上を目指します。			

達成状況 (自己評価)	理由
3	・消防水利整備 充足率の低い地域に、消火栓2基と防火水槽2基を整備し消防水利充足率が64.3%に上昇した。 ・人材育成内容 「新消防指令システムの操作技術」 「国が示す標準的な指令員資質の向上」を含めた通信指令員マニュアルを作成し、両市消防本部の統一したカリキュラムにより44名を対象に教育を実施したことにより通信指令員の資質の向上が図れた。
4	2回/月の定例型開催を実施した。普通救命講習Ⅰ受講者は685名 普通救命講習Ⅲ受講者は72名 上級救命講習受講者は42名 応急手当普及員は33名 救命入門コースは961名が受講した。その他の救急法等は1425名が受講し、すべての救命講習においてAEDについて広報した。 AEDマップからAEDナビへの移行については、(広報いが、ウィークリーいが、防火協会への協力依頼、消防団への協力依頼、市ホームページへの掲載、ポスターの掲示)などを行ったが現在の移行率は30%であるため、今後は各事業所に足を運び移行の依頼をする予定。 ※市民による救命処置率 80% ※市民によるAED使用率 14% ※市民が救命処置を行った傷病者のうち、9.4%が蘇生している。

組織使命	組織使命達成に向けての目標		目標の達成水準	目標を達成するための手段	達成状況 (自己評価)	理由
◎部局目標3	関連の施策・基本事業No	2-2.③				
予防体制の充実強化を図り、安心安全なまちづくりを進めます。	・住宅防火対策の促進と高齢者を火災から守る。		〈現在の状態〉 住宅火災による死傷者は高齢者の割合が多い。 ↓ 〈達成目標〉 住宅火災による逃げ遅れ者をなくすために、住宅用火災警報器設置率80%以上を目指す。 ※目標が達成した状態 ・死者数の抑制、被害が軽減される。 ・市民が安心して暮らせる。	・関係機関と連携して高齢者宅防火訪問を実施する。 ・介護事業関係者等に対し火災予防啓発を行う。 ・住宅用火災警報器の設置を市広報等で周知及び普及啓発を図る。 ・企業訪問し日本語、多言語の住宅用火災警報器の設置をチラシ説明、配布普及啓発を図る。 ・ホームセンターにて住宅用火災警報器の設置のチラシ、住宅警報器パネル説明等による普及啓発を図る。	▶ 3	・防火訪問20軒訪問 ・女性消防団「しのび小町」16軒防火訪問 住宅用火災警報器取付2軒 実施済 ・住宅用火災警報器の設置チラシ配布(企業訪問従業員用) 企業訪問38事業所訪問実施済み(外国籍の方がいる事業所には多言語チラシも併せて配布) ・秋春予防週間にホームセンターにて住宅警報器の設置の啓発活動を実施済み ・今年度中の調査において、住宅用火災警報器設置率は、79%となった。 ・令和5年度中の死亡者は1名である。
◎部局目標4	関連の施策・基本事業No	2-2.①				
消防団と連携し火事や地震、台風等の災害から住民の命を守ります	活性化計画を推進する消防団と更なる連携強化を図ります。		(現在の状況) 第3次伊賀市消防団活性化計画(令和5年度から令和9年度)の1年目 (達成目標) ・女性団員の活動拡充 (現団員数が20名であり条例定数の30名を目標とする) ・次世代を担う団員の確保 ・消防団を取り巻く環境の整備 ※目標が達成した状態 人口減少・少子高齢化にあっても地域防災力を持った消防団を維持していける。	・女性団員の活動内容を広報し住民の知名度の上昇につなげる。(3回/年) ・学校において消防団活動を広報し次世代を担う団員確保につなげる。(1回/年) ・消防団活動に対する応援・協力体制の確立のため「消防団協力事業所表示制度」の更なる普及推進を行う。(3事業所/年) ・常備消防との連携を深めるため、合同訓練を計画し実施する。(2回/年)	▶ 3	○女性団員の活動拡充 にぎわいフェスタ、伊賀市総合防災訓練、国際交流フェスタ、救急の集い等で防火防災啓発と広報を実施し知名度の向上に努め、女性団員1名が入団につながった。 ○次世代を担う団員の確保 将来の団員確保につなげるため、主に放課後児童クラブで防火啓発と消防団の活動内容を広報(4回/年)を実施した。 ○消防団を取り巻く環境の整備 常備消防と非常備消防が連携し安全管理研修の実施、操法訓練の実施、文化財訓練(7カ所)を実施し知識や技術の向上に繋げている。「消防団協力事業所表示制度」については2年毎に見直し普及推進を行う。
◎部局目標5	関連の施策・基本事業No	2-2.②				
多文化共生社会の中でいろんな国籍の方にも防火・防災活動に参加していただけるようにします。	・救急講習や初期消火訓練等における外国人に対する取組を進めます。		〈現在の状態〉 多文化消防フェスタや広報で外国籍の方に防火や応急手当など消防・防災のことを知ってもらえる機会を作っているが参加率が低い。 ↓ 〈達成目標〉 防火・防災・救急に関する訓練等に伊賀市在住の外国人30名以上の参加を目指す。 ※目標が達成した状態 火災や災害時に外国人の方が取り残されない。	・関係機関と協力して外国人コミュニティとの交流を図る。 (消火訓練や119番の通報要領・応急手当などの体験型イベント2回/年)	▶ 4	・外国人リーダー研修において、30名に対し、救急法・車両展示を実施した。 ・多文化共生事業(外国につながる子供のための夏季セミナー)50名に対し、救急法・消火訓練を実施した。 ・市ホームページの外国人向けパンフレット作製(119番通報要領)